

4年間の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

支出 **2,737,208円**

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代 第83号～第116号)	477,796円
交通費(駐車場、燃料代1/2、高速代)	579,966円
勉強会会場費	16,800円
通信費(携帯電話代1/2、折込代、郵送代)	1,662,646円
支出計 2007/4～2011/2	2,737,208円

市政を考える

月刊**武松**

発行日

11/3/1

第117号

60000部発行

だけまつ ただし

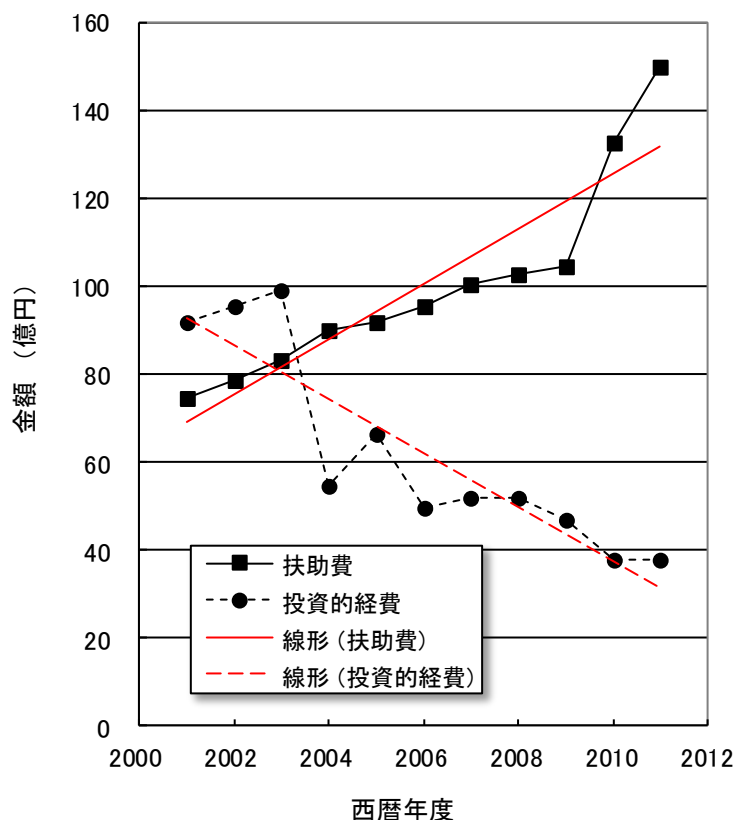
頒布責任者: **武松 忠**(市議会議員)

武松政策研究会

増える扶助費！減る投資的経費！

子ども手当と生活保護で扶助費が急増！道路や施設は新設から補修へ!?

図1 扶助費と投資的経費の推移



■この10年間で扶助費は2倍！投資的経費は半分以下！

市の財政状況が厳しいといわれています。基本的には税収減なのですが、昨年から地方交付税の交付団体となり、歳入自体は横ばいとなっています。性質別で支出を見ると義務的経費のうち扶助費の増加が顕著です。そのため相対的に投資的経費が減っています。

扶助費：生活保護費、障害者支援、保育所運営費、児童手当、子ども手当
医療費助成等の経費

投資的経費：道路、橋、公園、学校の建設など、社会資本の整備の経費

図1に扶助費と投資的経費の推移を示します。直線は線形近似したものです。扶助費は年平均6.2億円増加し、2001年度の倍にまで膨らみました。一方、投資的経費は、年平均6.1億円減少し、ピークの半分以下にまで減少しています。

投資的経費が減少している主な要因としては、小田原駅東西自由連絡通路の完成と小中学校校舎や体育館の耐震補強が全て終了したこともあります。

扶助費の増加は、高齢者の増加に伴う医療費助成や支給年齢をだんだんと引き上げた小児医療費助成の増加に加え、景気動向に伴う生活保護の増加によるものです。また、2010年度の扶助費の大幅な伸びは子ども手当の創設によるものです。

このように扶助費の増加は、扶助費を必要とする市民の増加に加え、国や市の政策によってさらに増大します。しかも政策によって一度追加したものを削減することは非常に困難です。

議会としても慎重に判断しなければなりません。

新市民ホール、再開発以外にも 多くの課題が!?

■ごみ処理広域化（1市3町）

- ・熱回収施設（焼却施設）を小田原市に
320t/24h 稼働目標2020年度 事業費170億円
焼却方式は、今後実施計画策定に向け検討する。
- ・最終処分場を3町のいずれかに
容量53000m³ 稼働目標2020年度 事業費30億円
焼却灰100%資源化。不燃残さは可能な限り、資源化を行い残りは埋立処分する。

■広域斎場（2市5町） 事業費50～70億円(09年度の試算)

炉数：火葬炉 10炉 諸室：告別室、収骨室、待合室ほか
（式場、動物炉は非設置の予定）
駐車場：乗用車110台程度、バス20台程度
南足柄市の用地取得を断念したため、大幅な計画変更が必須

■市民会館

現市民会館は、耐震補強工事済み。新市民ホールは、16年度の開館を目指し用地取得中。基本構想はまとまる。

■小田原地下街

耐震診断や設備類調査の結果、一部に補強が必要と診断されたため、耐震補強に合わせ設備更新と店舗改修（計約10億円）を行う方針。2月に基本方針が示され、上記改修費は小田原市が支出し、事業運営者も小田原市となる方向が示される。

再開は12年度末になる見込み。

■生涯学習センターけやき

耐震診断の結果、耐震補強が必要。今後の設計等によるが、数千万円規模の工事費を見込む。

■市役所本庁舎

耐震診断結果と第三者機関の評価結果も合わせ耐震補強が必要。補強工事を行った場合、市の負担割合は、国の補助割合が1/3のため2/3となり、工法にもよるが10億円程度は見込まれる。

ごみ処理広域化、広域斎場、地下街、本庁舎など莫大な経費がかかるものが次々に明らかになってきました。新市民ホール、地下街、そして再開発事業は、事業手法を精査し市費負担を減らさなければ実現は困難です。全てを行うのではなく、場合によっては選択することも必要と考えています。

「子供たちが安心して遊べる地域に」

私は、地域や公園から子供たちの遊ぶ声が聞こえることが、地域のあり方として一つの理想と考えています。その実現のためには、社会情勢を含め、安心安全など市政全般にわたる課題を解決していかなければなりません。

国政では、政権交代したものの子ども手当や高速無料化などのバラマキ政策により、子供を持つ親の世代や子供の世代が、将来にわたり間接的に借金を返済しなければならなくなってきました。しかし、その世代の市民は市政にあまり興味のないことが市議会アンケートでわかりました。

私は、これまで3期12年間、「**市政をぐつと身近に!**」をモットーに**月刊武松**の発行と一般質問など積極的に広報・議会活動を行ってきました。これは、まず皆さんに市政に興味を持っていただかなければ始まらないと考えたからです。

月刊武松は、駅頭配布、新聞折込み（川東南部地区 第1土曜）、そしてバイク配布で、**月1万6千部**配布しています。

現在117号で、**延べ138万部発行配布**しました。

ホームページは、毎日更新の日刊武松、月刊武松のバックナンバーや勉強会の案内、データ等を掲載しています。現在まで11万6千件のアクセスがありました。

さらに、誰でも参加できる**月例勉強会**を、懸案事業やまちづくりをテーマに**88回開催**しました。

本会議では一般質問を23回、代表質問を2回行いました。

私は、様々な行政データを「見える化」し、これからも月刊武松を発行し、問題点を明確にしていきます。

ずっと安心して住める街に

- ・学校教育の充実
- ・交通対策
- ・防災（浸水対策の推進）
- ・社会基盤の計画的整備
（焼却場・火葬場・上下水道）

財政状況も大変厳しい状態です。ホール、再開発や地下街は先送りにして、1日でも停止したら、住民生活に多大な影響がある社会基盤の計画的整備を優先的に進めるべきです。

行政改革の推進

- ・職員数の適正化
- ・助成金や補助金の適正化

職員数を減らすには、業務の抜本的な見直しを行い、団塊世代の退職者数の多いこの時期に新採用数を減らさなければ実現できません。

私は、組織や団体に属さず支援も受けていません。「**しがらみの無い、確かな目**」で正しい政治判断をしていきたいと思えます。

The Voice これまでに頂いたご意見から

児童生徒の教育は大丈夫なんでしょうか？

月刊武松116号の全国学力・学習状況調査の結果を拝見しました。点数の差が少ないとはいえ全国の県平均に照らしてみるとこれほどとは思いませんでした。

ランキング付けするのが目的ではありません。

- 全国学力・学習状況調査の目的は、
- ・国が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上に観点から各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - ・各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- というもので、ランク付けするのが目的ではなく、各県平均と市の平均を比べるのは母数も違いあまり意味がない。

あまり差がないものを誇張したまとめ方です

月刊武松116号を拝見しました。確かにその通りかもしれませんが、実際の点数の差は非常に少ないものです。ランキングすればグラフの通りかもしれませんが、あえて4科目の合計のみの比較としたのは、結果を誇張するためのまとめ方だと思います。

それぞれご指摘を頂きましたが、4科目の平均正答率の合計を比較するのは自然なことだと思います。しかしこの比較方法は心外だと思われる教育関係者の声も聴いています。

このデータで私は、

- ・多くの市民に児童生徒の学力に関心を持っていただく
 - ・学校が純粋に学力向上の場となって欲しい
 - ・躰や不登校対策や食育など家庭や地域でできることは、家庭や地域に
 - ・児童生徒のために地域でできることから始めよう
- といった思いからデータをまとめたものです。

月例勉強会のお知らせ

勉強会はどなたでも参加できます。自己紹介はしていただきますが、勧誘は一切行いません。

3月の勉強会は

日 時：3/26(土)18時～20時
場 所：市民会館 6階 第1多目的室
テーマ：「**2011年度予算について**」
参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います。

HPは、**YAHOO!**で「**たけまつただし**」
月刊武松のバックナンバーを全て掲載しています。

武松 忠のプロフィール

- ・1965年8月9日 国府津生まれ（小八幡在住）
- ・小田原市立国府津小学校、国府津中学校卒
- ・神奈川県立西湘高等学校卒
- ・東京職業訓練短期大学校電気科卒
（現 職業能力開発総合大学校東京校）
- ・1986年4月～1999年6月 日本真空技術(株)勤務
ロボット・半導体製造装置等の開発に従事
- ・日本赤ちゃん学会正会員
- ・配食ボランティア虹の会事務局
- ・NPO法人移送ボランティア車窓の会監事
- ・家族 5人（妻、1男2女）

主な役職

- ・市議会副議長（2008年度）
- ・小田原市監査委員
- ・小田原市国民健康保険運営協議会副会長
- ・小田原警察署委嘱少年補導員

